

判定基準値及び記号説明コード表

■検査項目別判定基準値

	記号	検査項目	単位	A判定 異常なし	B判定 軽度異常	C判定 要観察	D判定 要精検	注意すべき点	
肥満度	BMI	BMI		18.5~24.9		25.0以上 18.4以下		標準体重(kg)=身長(m) ² ×22(BMI算式) 標準体重比(%)=(体重-標準体重)÷標準体重×100	
		腹囲	cm	(男) 84.9以下 (女) 89.9以下		(男) 85.0以上 (女) 90.0以上			
肝機能	尿検査	ウロビリノーゲン	試験紙	正常	(-)	(+)		○乳び ・高濃度の脂質を含んでいる状態で、食後に採血した場合や中性脂肪の高い方に見られる。	
	ALP (IFCC法)	アルカリフォスファターゼ	U/L	38~113	37以下	114以上			
	AST (GOT)	アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ	U/L	0~30	31~35	36~50	51以上	項目により影響を受けるものがある為、採血は食後10時間以上が望ましい	
	ALT (GPT)	アラニンアミノトランスフェラーゼ	U/L	0~30	31~40	41~50	51以上	○溶血 ・採血時に何らかの原因で赤血球が壊れ血清・血漿が赤くなる状態 溶血により影響を受ける項目がある	
	γ-GTP	γ-グルタミルトランスペプチダーゼ	U/L	0~50	51~80	81~100	101以上		
	TBL	総ビリルビン	mg/dL	0.2~1.2	0.1以下 1.3~1.9		2.0以上		
	TP	総タンパク	g/dL	6.5~8.0	8.1~9.0	6.0~6.4	5.9以下 9.1以上	○バランスのとれた食事を ○アルコール、たばこはひかえる ○疲労を蓄積しないように ○薬の乱用はさける	
	LD (IFCC法)	乳酸デヒドロゲナーゼ	U/L	124~222		123以下 223以上			
	ChE	コリンエステラーゼ	U/L	185~431	184以下 432以上				
	ALB	アルブミン	g/dL	4.0以上		3.6~3.9	3.5以下		
	A/G	アルブミン・グロブリン比		1.30~2.00	1.29以下 2.01以上				
	HBs抗体	HBs抗体	mIU/mL	(-) 5.0未満	(+) 5.0以上				
	HBs抗原	HBs抗原	IU/mL	(-) 0.03未満	(+) 0.03以上				
	HCV抗体	HCV抗体	C.O.I	(-) 1.0未満	(+) 1.0以上				
	循環器	血圧	安静時	最高 最低	mm/Hg mm/Hg	129以下 84以下	130~139 85~89	140~159 90~99	160以上 100以上
TCH		総コレステロール	mg/dL	140~199	200~219	220~259	139以下 260以上		
HDLC		血清 HDLコレステロール	mg/dL	40~119		30~39	29以下 120以上		
TG		血清 中性脂肪	mg/dL	30~149	150~199	200~399	29以下 400以上		
LDLC		LDLコレステロール	mg/dL	60~119	120~139	140~179	59以下 180以上		
尿検査		蛋白	試験紙	(-)	(±)	(+)	(++)以上	○過労をさける (かぜや扁桃腺炎の後は特に注意する)	
尿検査		潜血	試験紙	(-)	(±)	(+)	(++)以上	○バランスのとれた食事を (塩分をかえぬにする)	
BUN	尿素窒素	mg/dL	7~24		6以下 25以上		○痛風 ・肉 (レバー・もつ類) は少なくする (UA関連) ・太りすぎないように ・アルコールはひかえめにする		
CRE	クレアチニン	mg/dL	(男) 1.09以下 (女) 0.79以下		1.10~1.29 0.80~0.99	1.30以上 1.00以上			
UA	尿酸	mg/dL	7.0以下	7.1~7.5	7.6~8.9	9.0以上			
糖代謝	尿検査	尿糖	試験紙	(-)	(±)	(+)		○高血糖 ・肥満に注意する ・過食をさけ、規則正しい生活をする ・適度な運動をする ・ストレスをためない工夫をする	
	GLU	空腹時血糖 随時血糖	mg/dL	50~99 50~139	100~109 140~199	110~139 140~199	49以下 200以上		
	HbA1c	ヘモグロビンA _{1c} (NGSP値)	%	5.5以下	5.6~5.8	5.9~6.8	6.9以上		
血球検査	Hb	血色素量	g/dL	(男) 13.1~16.6 (女) 12.1~14.6	16.7~17.9 14.7~15.9	12.0~13.0 11.0~12.0	11.9以下 10.9以下	18.0以上 16.0以上	○貧血 ・偏食をしないように ・鉄分を十分にとる (レバー・肉・緑黄色野菜等) ・貧血のもとになる病気が治療する (胃潰瘍、痔、子宮筋腫等)
	Ht	ヘマトクリット値	%	(男) 38.5~48.9 (女) 35.5~43.9	49.0~52.8 44.0~46.9	35.4~38.4 32.4~35.4	35.3以下 32.3以下	52.9以上 47.0以上	
	RBC	赤血球数	×10 ⁴ /μL	(男) 400~539 (女) 360~489	540~579 490~519	360~399 330~359	359以下 329以下	580以上 520以上	
	MCV	平均赤血球容積	fL	(男) 83.5~100.7 (女) 83.1~97.7		83.4以下 83.0以下	100.8以上 97.8以上		
	MCH	平均赤血球色素量	pg	(男) 28.4~34.4 (女) 27.0~33.6		28.3以下 26.9以下	34.5以上 33.7以上		
	MCHC	平均赤血球色素濃度	%	(男) 31.8~36.1 (女) 31.2~36.0		31.7以下 31.1以下	36.2以上 36.1以上		
	PLT	血小板数	×10 ³ /μL	13.0~34.9	35.0~39.9	10.0~12.9	9.9以下 40.0以上		
	WBC	白血球数	×10 ³ /μL	32~85	86~89	26~31	25以下 90以上		
	その他	Fe	血清鉄	μg/dL	40~199	200~299	30~39	29以下 300以上	
		CRP	C反応性蛋白	mg/dL	0.4以下	0.5~0.9		1.0以上	
RF		リウマチ因子	IU/mL	(-) 15以下	(+)	(+)	16以上		
肺臓	B-AMY	血中アミラーゼ	U/L	21~120		20以下 121以上			
	心電図検査			正常及び軽微		経過観察	異常		
眼底検査	Schele分類		異常なし		要観察	要精検			

※平成20年度人間ドック学会基準値に準ずる。

※空腹とは食後から採血まで10時間以上経過しているものとする。

2020年1月より

※HBs抗体、HBs抗原、HCV抗体測定方法変更

※HBs抗原の単位及び基準値変更

※HbA1c測定方法変更 (→酵素法)

2021年4月より

※ALP、LDの測定方法及び基準値変更

(JSCC法 → IFCC法)

■安静時心電図・診断結果コード

I 異常Q・QS波	II 軸偏位
1-1 異常Q波	2-4 極端な軸偏位(-90°~-149°)
1-2 異常Q波の疑い	2-5 不定軸
II 軸偏位	III R波増高
2-1 左軸偏位(-30°~-90°)	3-1-2 高電位
2-2 右軸偏位(+120°~-150°)	IV ST低下
III R波増高	4-3 ST低下(水平または下行型&ST部下降<0.05mV)
3-1-1 左室肥大(高電位&ST・T変化)	4-4 ST低下(ST部上行型&ST部下降≥0.1mV)
3-2 右室肥大(RV1≥0.5mV&RV1/SV1>1,RV2/SV2>1)	V T波異常
IV ST低下	5-3 平低又は陰性・II相性(陰相性<0.1mV)
4-2 ST低下(水平または下行型&ST部下降≥0.05mV)	5-5 平坦T波(陽性T/R<1/10)
V T波異常	VI 房室伝導異常
5-2 陰性・II相性(陰相性≥0.1mV)	6-3 第1度房室ブロック(PQ≥0.22秒)
VI 房室伝導異常	6-4 WPW症候群
6-1 完全房室ブロック	6-5 PQ短縮(PQ<0.12秒)
6-2 第2度房室ブロック	6-8 ベースメーカー調律
VII 心室伝導障害	VII 心室伝導障害
7-1 完全左脚ブロック	7-2 完全右脚ブロック
7-6 不完全左脚ブロック	7-3 不完全右脚ブロック
7-8 完全右脚ブロック&左脚前枝ブロック	7-4 心室内ブロック
VIII 不整脈	7-7 左脚前枝ブロック
8-1-1 上室性期外収縮; 頻発(≥10%),連発	VIII 不整脈
8-1-2 心室性期外収縮; 頻発(≥10%),連発,多源RonT	8-1-4 ベースメーカー移動
8-1-3 上室性期外収縮と 心室性期外収縮の両方(≥10%)	8-9-1 上室性期外収縮;散発(<10%)
8-2 心室細動・心室頻拍	8-9-2 上室性期外収縮;散発(<10%)
8-3-1 心房細動	8-9-3 洞性不整脈
8-3-2 心房粗動	8-7-2 軽度洞性徐脈(100/分~120/分)
8-4 上室性頻拍	8-8-2 軽度洞性徐脈(40/分~50/分)
8-5 洞停止・洞房ブロック・洞機能不全症候群	IX その他
8-6 房室解離	9-1 低電位(肢誘導<0.5mV, 胸部誘導<1.0mV)
8-7-1 高度洞性頻脈(>120/分)	9-2 ST上昇(V1~V4≥0.2mV, 他の誘導≥0.1mV)
8-8-1 高度洞性徐脈(<40/分)	9-3-1 右房負荷
IX その他	9-3-2 左房負荷
9-0 その他	9-5-1 高いT波(T>1.2mV)
	9-6-1 陰性U波(I,II,V4~V6にて)
	9-7 右胸心
	9-7-1 QT延長

■胸部X線所見記号

記号	所見 (指導区分)	記号	所見 (指導区分)
01	心拡大	58	肺炎腫・プラ
11	大動脈弓突出	59	びまん性陰影
51	異常陰影 (肺癌)	31	甲状腺腫
52	無気肺	32	縦隔陰影
53	胸水	33	胸郭異常
54	活動性結核	35	横隔膜異常
55	活動性非結核病変		
56	陈旧性炎症		
57	胸腺肥厚		

■胃部X線所見

記号	所見 (指導区分)
11	胃癌疑
21	胃ポリープ疑
31	胃潰瘍疑
41	胃十二指腸潰瘍疑
51	十二指腸潰瘍疑
61	慢性胃炎疑
70	切除胃
28	胃部隆起性病変
32	胃潰瘍癒瘍
33	胃部陥凹性病変

■子宮頸がん検査

H25年度より子宮頸がん検査の結果表示が変更となりました。
2013年度より日本でも国際基準に準じた『ベセスダシステム』表記を目指すことが
日本産婦人科医学会で機関決定しました。従来の『クラス』表示から国際基準である
『ベセスダシステム』が導入され、検査した細胞の状態がより細密に記されるよう
になりました。判定は『ベセスダシステム』に準じて行っております。

従来のクラス分類とベセスダシステム表記の対応表

表1 細胞診結果 その1：扁平上皮系

	ベセスダシステム 略語	ベセスダシステム結果	従来の クラス分類	運用	推定される病変
標本の 適否	適正 See below	適正	判定可能	再検査	
	不適正	不適正	判定不能		
細胞診 判定	NILM	陰性	I、II	異常なし	■非腫瘍性所見 ■炎症・微生物
	ASC-US	意義不明な異型 扁平上皮細胞	II-IIIa	要精密 検査	■軽度扁平上皮内 病変疑い ■高度扁平上皮内 病変疑い
	ASC-H	HASILを除外できない 異型扁平上皮細胞	IIIa-b		■HPV感染 ■軽度異形成
	LSIL	軽度扁平上皮内病変	IIIa		■中等度異形成 ■高度異形成
	HASIL	高度扁平上皮内病変	IIIa IIIb IV		■上皮内癌 ■微小浸潤扁平 上皮癌疑い
SCC	扁平上皮癌	V	■微小浸潤扁平 上皮癌推定 ■扁平上皮癌		

表2 細胞診結果 その2：腺細胞系

	ベセスダシステム 略語	ベセスダシステム結果	従来の クラス分類	取扱い	推定される病変
細胞診 判定	AGC	異型腺細胞	III-IV	要精密 検査	■腺異型または 腺癌疑い
	AIS	上皮内腺癌	IV		■上皮内腺癌
	Adenocarcinoma	腺癌	V		■腺癌
	Other	その他の異型細胞・ 悪性腫瘍	III-V		■その他の異型 細胞・悪性腫瘍

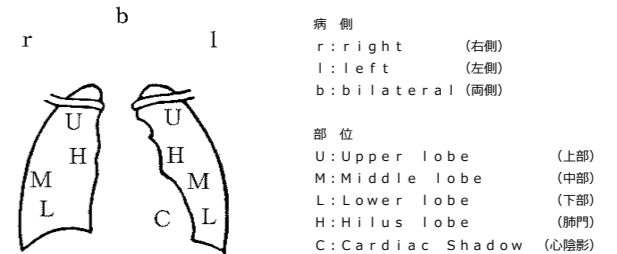
参考資料

○BML「日母分類(クラス分類)」とベセスダシステム表記の対応表

○ベセスダシステム2001準拠子宮頸部細胞診結果報告書式例

※当協会では子宮がん検査細胞診はBMLに外部委託しています。

■X線所見部位



胸部X線の1次検査は精度に限界があり異常の有無を識別して
精密検査の要否を判別するものです。



〒918-8238
福井市和田2丁目1006番地
TEL:0776-23-4810(代) FAX:0776-23-4876